

草津市幼保一体化検討委員会主な意見のまとめ

(第3回までの振り返り)

回	項目	内容
第1回	乳幼児教育・保育指針	「乳幼児教育指針」について、保育とは教育と養護を含んでおり、「乳幼児教育・保育指針」としていただきたい。
	幼保人事交流	幼稚園と保育所での人事交流（公立）において、異なる流れで来た二つの形態（幼保）が一緒になった場合、どのような問題が出てくるのか、その実態と今後の人事交流をどのように活用していくかの見通しについて、報告書のようなものを作成されてはどうか。
第2回	幼児教育の土台（精神的なもの）の大切さ	子どもの教育について、まず、私たちが子どもをどういうふうに育てたいかということがあり、次に理論があると思う。幼稚園において、精神的なことをとても大事にしてきており、そういうことを土台にした上で、話し合いがこれから持っていけたらいいと思う。
	幼児教育・保育の開始時期	育むという原点の下に、教える形がいい保育、いい教育につながると思う。胎教の時点から、教育・保育が始まっている観点も必要。
	保護者意見	実際に幼稚園、保育所に預けている保護者の意見を汲み取ることが必要
第3回	保育形態の違い	一体化の議論の中で、保育形態の違い（縦割り保育・横割り保育、設定保育等）の点のすり合わせを考えていくことが必要ではないか。 保育の内容に関わる部分を検討していくことは重要であり、幼保の教育・保育の質を考えていくことが必要
	園庭開放	園庭開放について、園によって違うが、目指しているのは、園への集団生活へのスムーズな移行と、子育て支援として預かるだけではなく、親への支援もある。
	親（子）の交流等の取り組み	全ての幼稚園、保育所において、親子が向き合い、親同士のコミュニティを確保する取り組みが行われているという特徴はあげられる。その対象が2歳児であったり、0歳児であったりする。
	未就園児活動	未就園児活動の中で、子どもだけでなく親御さん同士の交流というか、日ごろの子育ての中で悩んでおられるようなことをお互いに出し合って、少しでも参考にしていただければなど、そんなことも考えて取り組んでいる。
	地域交流の大切さ	保育所の子育て支援活動の中で、いろいろな方と交流もでき、助かった。地域との交流の中で、地域の方が園に来られて会話をされたり、餅つきなどの一緒に活動されたりすることで、絆みたいなのが生まれるのではないかと思いますし、すごくいい活動をしている。

回	項目	内容
第3回	幼稚園での預かり保育	預かり保育に関して、幼稚園でもほぼ保育園に近いことをやっている園もある。その一方、職員の負担は大きい。幼稚園の延長・預かり保育のニーズはある。
	特別支援教育等	軽度発達障害の子どもが、最近、本当に多くなり、草津市の発達支援センターに頻りに相談をさせていただいている。1人の先生が抱えている多種多様な問題は大きい。
		特別支援を要する子どもへの人員配置が難しい問題がある。幼稚園で公私立間の違いも見受けられる。
	幼保一体化の保護者の不安	検討委員会について、他の保護者に報告をすると、不安の意見しか出てこない。幼稚園とのカリキュラムが違うこと、給食のことなど、保護者側の不安は大きい。守山市等の一体化の近隣事例における、問題点や解決策等の情報を取り入れながら、議論を進める方がよい。
	保幼小の交流の確保	幼稚園、保育所から小学校に上がるときの一番のネックは、給食や環境の違い。小学校へ行くとか、保育所だけ幼稚園と交流するとか、子ども同士の交流などをもう少し活発に行うと、小学校に上がったときにも安心できる要因の1つになると思う。私立も含めて交流があるといいと思う。
給食体験	公立幼稚園において週に1、2回程度、給食などの体験を行っている園がある。小学校に上がる前に、給食の体験みたいなものがあったもいいのではないか。（小学校の給食を幼稚園で食べる、小学校の給食を幼稚園の子どもが行って、そこで一緒に頂くという体験等）	

第3回までを振り返った中での大きな視点

「幼保の教育・保育の質」を考えていく

未就園者への教育・保育（未就園児活動）
（子育て支援、地域との交流・協働、地域貢献等）

特別支援教育のあり方
（人員配置、公私立の役割分担）

幼稚園での預かり保育や延長保育といった保護者
ニーズ（職員配置体制の確保）

幼保の連携、幼保小の連携
（給食などを含め）